

# 多様な森林施業の考え方

## 育成複層林

### 針広混交林化・広葉樹林化

#### (内容)

針葉樹一斉人工林を帯状、群状等に択伐し、その跡地に広葉樹を天然更新等により生育させ、針葉樹と広葉樹を混在させる施業

#### (メリット)

- ・継続的な樹冠の維持による林地の裸地化の防止による水源かん養や土砂の流出防止等に係る公益的機能の向上
- ・郷土樹種からなる多様な樹種構成による生物多様性の向上
- ・多種多様な木材生産
- ・天然力の活用による育林コストの抑制

#### (誘導に当たって経営上判断すべき事項)

- ・生育に長期間を要し、継続的な木材生産には利点が小
- ・下層木(広葉樹)に対する木材生産の期待度は低位

#### (留意事項)

- ・天然更新の技術開発・普及を積極的に行う必要
- ・樹種により適地に制約があり、母樹や下層植生状況を精査する必要



広葉樹との混交林へ誘導しているヒノキ人工林



スギと広葉樹の混交林



## 育成複層林

## 複層林化

(内容)

針葉樹一斉人工林を帯状、群状等に択伐し、その跡地に人工更新等により複数の樹冠層を有する森林を造成する施業

(メリット)

- ・継続的な樹冠の維持による林地の裸地化の防止による水源かん養や土砂の流出防止等に係る公益的機能の向上
- ・適度な光環境の維持による下層植生の多様化
- ・適度な光環境による保育コストの抑制

(誘導に当たって経営上判断すべき事項)

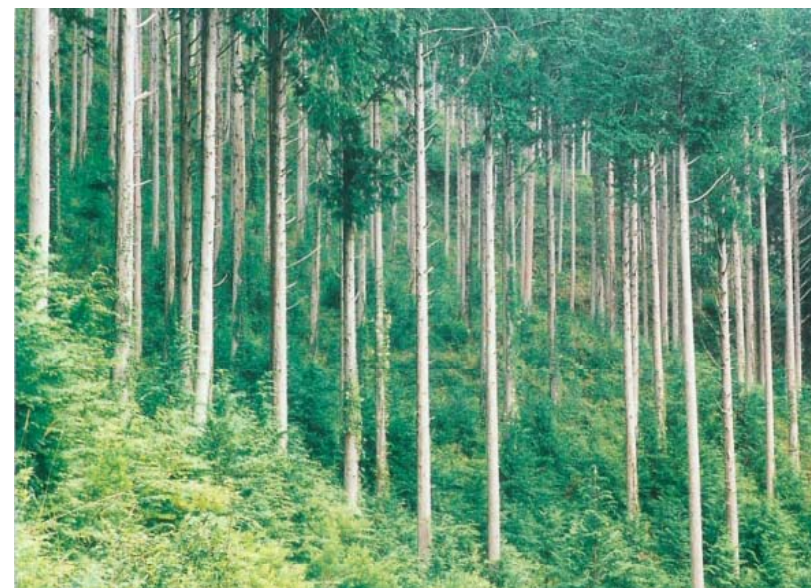
- ・単層林施業に比較して伐採コストが増
- ・伐採を先送りする上層木について、投資資本回収までが長期化。また、その間の台風被害等のリスクが高まる可能性

(留意事項)

- ・伐採や照度管理等高度な育成技術が必要



複層林施業を行っているスギ人工林



複層林施業を行っているヒノキ人工林



## 育成単層林

## 長伐期化

(内容)

従来の単層林施業が40～50年程度で主伐(皆伐)することを目的としているのに対し、概ね2倍に相当する林齢まで森林を育成し主伐を行う施業

(メリット)

・長期的な樹冠の維持による林地の裸地化の頻度の低下による水源かん養や土砂の流出防止等に係る公益的機能の向上

・大径化による生産性と歩留まりの向上

・造林の機会の減による施業コストの抑制

・高齢級間伐による出材コントロールが可能

(誘導に当たって経営上判断すべき事項)

・主林木の投資資本回収までが長期化。また、その間の台風被害等のリスクが高まる可能性

(留意事項)

・従来の施業よりも頻度は少ないが、下層植生がない場合には一時的に裸地化

## 従来の伐期による伐採・更新(参考)

(内容)

40～50年程度の伐期で主伐(皆伐)を行い再造林を行う施業

(留意事項)

・主伐を実施した後に一時的に裸地化



高齢級のスギ人工林(94年生)



スギ造林地  
長伐期あるいは従来の伐期で皆伐・新植を実施